

2016年12月4日（日）『私達に不可欠な言葉と命と光』

### 本日のおもちかえり

1) ヨハネ1章1節－5節を読みましょう。なぜ聖書では「言葉」が重視されているのですか。もし、私達に「言葉」がなかったから私達はどんな生き方をしているのでしょうか。

2) 詩篇33篇6節、詩篇107篇20節、ザヤ55章11節を読みましょう。ここから主の言葉はどんな力を持っていることが分かりますか。あなたは日々の生活の中で主の言葉にどれだけ親しくしていますか。

3) アモス8章11節を読みましょう。このアモスの預言はどれぐらいこの世界に成就していますか。主の言葉を聞くことの飢饉とはどんな飢饉なのでしょう。この現象をあなたはどこで見ますか。

4) 「命がある」という言葉には二つのことが含まれます。命があって、心臓は動いていても本当の意味で生きていないという状態とはどんな状態でしょうか。「言葉に命がある」とはどういう意味ですか。

5) ヨハネ6章30節－40節を読みましょう。真の命はどのようにしたら得ることができますか。

6) ヨハネ1章1節－5節を読みましょう。言葉、命、光とは結局、誰のことを指し示しているのでしょうか。

7) 私達の世界には闇があります。それに対して「闇はこれに勝たなかった」（ヨハネ1章5節）とはどういう意味ですか。

8) 「わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、闇のうちにとどまらないようになるためである」（ヨハネ12章46節）。「光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」（ヨハネ12章36節）。「光のある間に」とはどんな意味ですか。